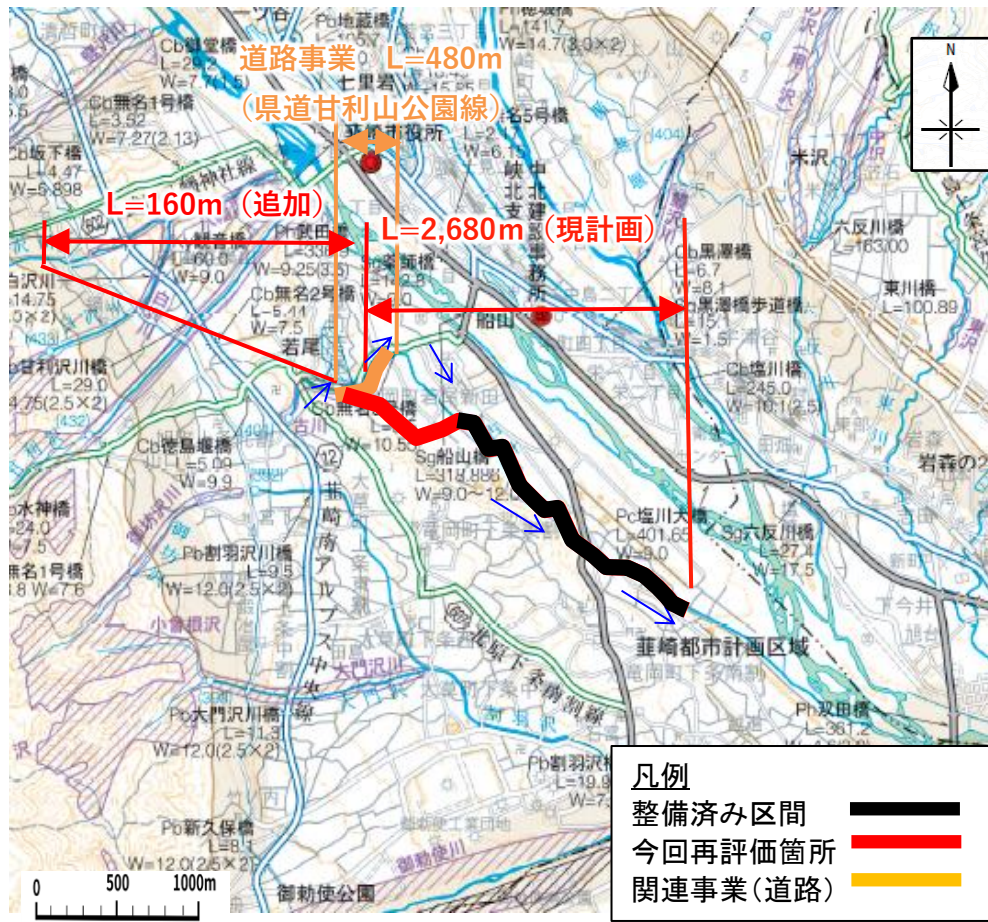


令和7年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) (国補) ・ 県単

事業名		治水事業〔統合一級河川整備事業(国補)〕		事業箇所	韮崎市龍岡町下條東割 ～大草町若尾	地区名	古川	事業主体	山梨県
計画期間	当初計画	現計画	変更計画	④特記事項（関連事業概要等） ・道路事業（一）甘利山公園線（若尾工区） 道路改良 L=480m W=5.5（10.0）m 事業期間 令和6～12年度 ⑤これまでの評価状況（令和2年度再評価） ・事業実施にあたっては、時間管理を徹底し、見直し案のとおり令和7年度までの完成に努められたい。 ②事業位置図等 					
	H3～H18	H3～R7	H3～R12						
総事業費	1,870 百万円	3,099 百万円	3,900 百万円						
（1）事業の概要									
①事業目的及び効果									
古川は、韮崎市南部の平坦地を流下する一級河川で、（主）韮崎南アルプス富士川線（旧国道52号）が隣接しており交通の利便性が良いため、沿川の宅地化が進んできている。 河川の現況は、計画流量30m3/sに対し、約4.4m3/sと15%程度の能力しか有していないため、平成23年の台風15号による降雨では、河道がほぼ満水状態となり、断面が狭小な区間では溢水し浸水被害が生じた。 このため、河道の拡幅及びバイパス水路の整備により治水安全度の向上を図り、洪水の発生を未然に防止する。									
○主要目標 ○洪水被害の防止 改修目標流量に対する現況流下能力の割合：0.15 < 0.4以下※ 浸水被害又は水防活動の実績：有 ※評価基準値 想定氾濫区域内における災害発生時の影響：有									
○副次目標 ○ー									
○副次効果 ○被災時の被害波及の防止 ○身近な緑地・交流の場の提供									
②事業概要									
全体計画施工延長 L=2,680m 治水安全度 4.4m3/s（1/1.01）→ 30～10m3/s（1/50）									
③全体計画									
		令和6年度まで	令和7年度 （評価実施年度）	令和8年度以降					
現計画	工事内容	護岸工：2,680m 橋梁工：17橋 取水堰：1基 用地補償：1式 測量設計：1式	調査：1式			凡例 整備済み区間 今回再評価箇所 関連事業（道路）			
	事業費	3,089 百万円	10 百万円						
変更計画	工事内容	護岸工：2,540m 橋梁工：17橋 取水堰：1基 用地補償：1式 測量設計：1式	護岸工：20m 調査：1式	護岸工：280m 用地補償：1式					
	事業費	3,079 百万円	20 百万円	801 百万円					

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

- ・用地取得困難者の発生

②産業・経済情勢

- ・労務費・建設資材の上昇

③国等の方針

- ・変化なし

④上位計画・関連事業計画等

- ・「山梨県総合計画」（令和5年10月策定）
- ・「山梨県強靱化計画」（令和6年3月改定）
- ・「山梨県社会資本整備重点計画（第四次）」（令和4年9月改定）
- ・「道路事業（一）甘利山公園線（若尾工区）」（令和5年度事前評価）

⑤自然環境条件等

- ・変化なし

⑥その他

- ・「道路事業（一）甘利山公園線（若尾工区）」の事業化による事業連携が必要

（2）評価時点の費用対効果分析

項 目		着手時点	令和2年度再評価時点	変更計画時点
総事業費		1,870 百万円	3,099 百万円	3,900 百万円
工 期		H3～H18	H3～R7	H3～R12
経済 効 率 性	評価基準年	H2	R2	R7
	費用	百万円	3,858 百万円	5,311 百万円
	建設費	百万円	3,293 百万円	4,614 百万円
	維持管理費	百万円	565 百万円	697 百万円
	便益	百万円	29,276 百万円	80,245 百万円
	一般資産被害防止額	百万円	10,193 百万円	38,612 百万円
	公共土木施設等被害防止額	百万円	17,211 百万円	37,435 百万円
	その他※	百万円	1,872 百万円	4,198 百万円
B／C		未算定	7.6	15.1

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上。

費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。

※その他は、間接被害防止便益

※令和2年度再評価時点との便益差については、治水経済マニュアルの変更により一般資産等の被害率が割増となったため。また、農地・農業用施設の被害額が別途積み上げになったことにより、公共土木施設等被害防止額が増大したため。

（3）これまでの計画変更等の概要

（平成22年度再評価）

公共事業関係予算の抑制により事業費の確保が困難となったこと、国道橋の架け替えに伴う仮設工事や取水施設整備等に費用を要したことにより、計画期間を平成29年度まで延長するとともに、総事業費を増額した。

（計画期間）4年延長 （事業費） 420百万円の増

（平成27年度再評価）

現況の土地形状と法務局の地図表示が異なっていたため、地図訂正を行う必要が生じたことから、計画期間を令和4年度まで延長した。

（計画期間）5年延長

（令和2年度再評価）

バイパス区間は、新たに川を開削する工事であり、地域要望に応じ周辺井戸水への影響を観測し、注意しながらの作業となったこと、さらに、水田の農繁期である5月から10月までの工事を極力自粛しなければならなかったことから、計画期間を令和7年度まで延長するとともに、総事業費を増額した。

（計画期間）3年延長 （事業費） 199百万円の増

評価シート（２）

（４）事業進捗状況及び見込み

①進捗率

- ・別表のとおり。

R7年度進捗率（現計画）100%→（実績）100%→（変更計画）80%

②進捗率実績が計画と相違している理由

- ・護岸工施工時に掘削面の崩落が発生したことから、矢板土留めを使用した施工となり、工事進捗状況に遅れが生じている。
- ・現古川との接続に際して、当初計画位置での接続計画に対し、用地取得困難者が発生したことから、事業区間を上流まで延長して、現古川との接続位置を変更する必要が生じたため。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減		変更理由
護岸工	771	百万円 増	背面矢板土留め工の増工 計画延長の変更に伴う護岸工の増工
用地補償費	30	百万円 増	計画延長の変更に伴う用地補償
合 計	801	百万円	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

- ・現古川へのバイパス区間の接続計画において、用地取得困難者の発生による計画変更によって、事業区間をL=160m上流まで延長する。これにより、事業費の増額と計画期間の延長が必要となる。
- ・現古川と並行する県道甘利山公園線の拡幅事業がR5年に事業化され、本事業との調整が必要となった。
- ・上記より、工期を5年間延長し、令和12年度の完成を目指す。

⑤今後の事業執行における留意点

- ・追加範囲の用地取得
- ・道路事業との調整

（５）環境負荷等への配慮

- ・バイパス計画により農地が分断されることから、橋梁工、掛樋（水路橋）を設置し取水等に配慮する。
- ・生物の生育環境を確保し、良好な河川環境と水辺空間の形成確保に配慮する。

（６）コスト縮減の可能性

- ・道路事業と連携した計画とすることで、コスト縮減を図る。

（７）代替案立案の可能性

- ・なし

（８）所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他（ ）

（理由）

- ・河川の氾濫による災害を防止するため、計画延長、事業費及び事業期間を延長し、令和12年度の完了を目指す。

〇別表-進捗率（事業費ベース）

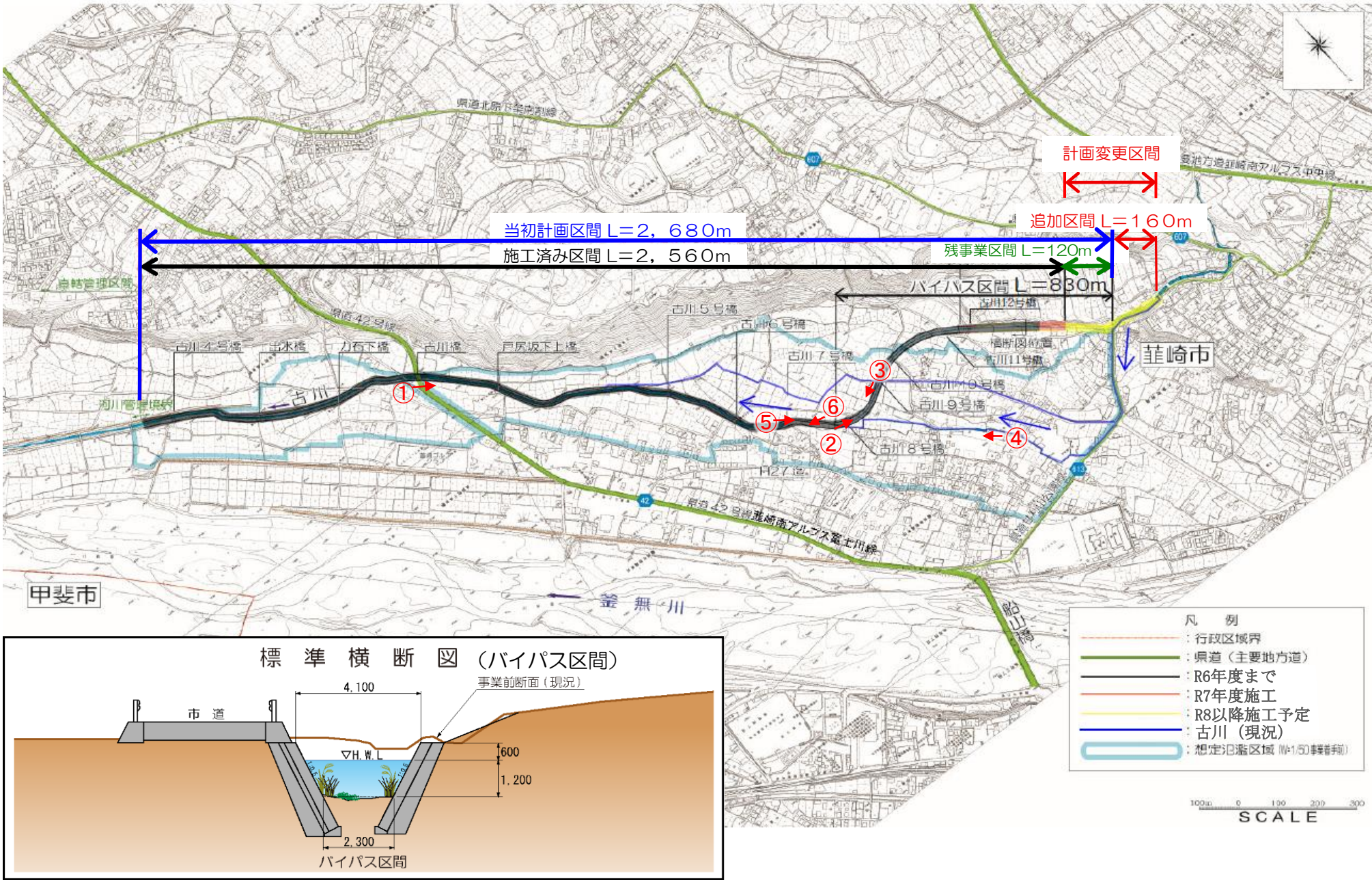
算出方法：【上段】現計画の計画事業費／総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費／総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費／総事業費×100 単位：％

	年度	*H3	～	*H17	～	*H22	～	*H27	～	H30	R1	*R2	R3	R4	R5	R6	*R7	R8	R9	R10	R11	R12
現	計画	0%		44%		70%		76%		85%	88%	90%	92%	95%	97%	99%	100%					
	実績	0%		44%		70%		76%		85%	88%	90%	94%	97%	98%	99%	100%					
変更計画																	80%	82%	87%	92%	96%	100%

*事業着手年度又は評価年度

*R7年度の実績は見込み

3. 添付資料シート (1)



3. 添付資料シート (2)

■ 現況等写真

写真① 県道「古川橋」より上流の状況（改修後）取水堰に魚道を設置



写真② 古川8号橋より上流の状況（改修後）



写真③ 古川9号橋より下流の状況（改修後）



写真④ 上流部の工場間を流れる古川の状況（現況河道）



3. 添付資料シート (3)

■ 現況等写真

写真⑤ バイパス起点付近 左：出水状況（改修前） → 右：現況河道（改修後）

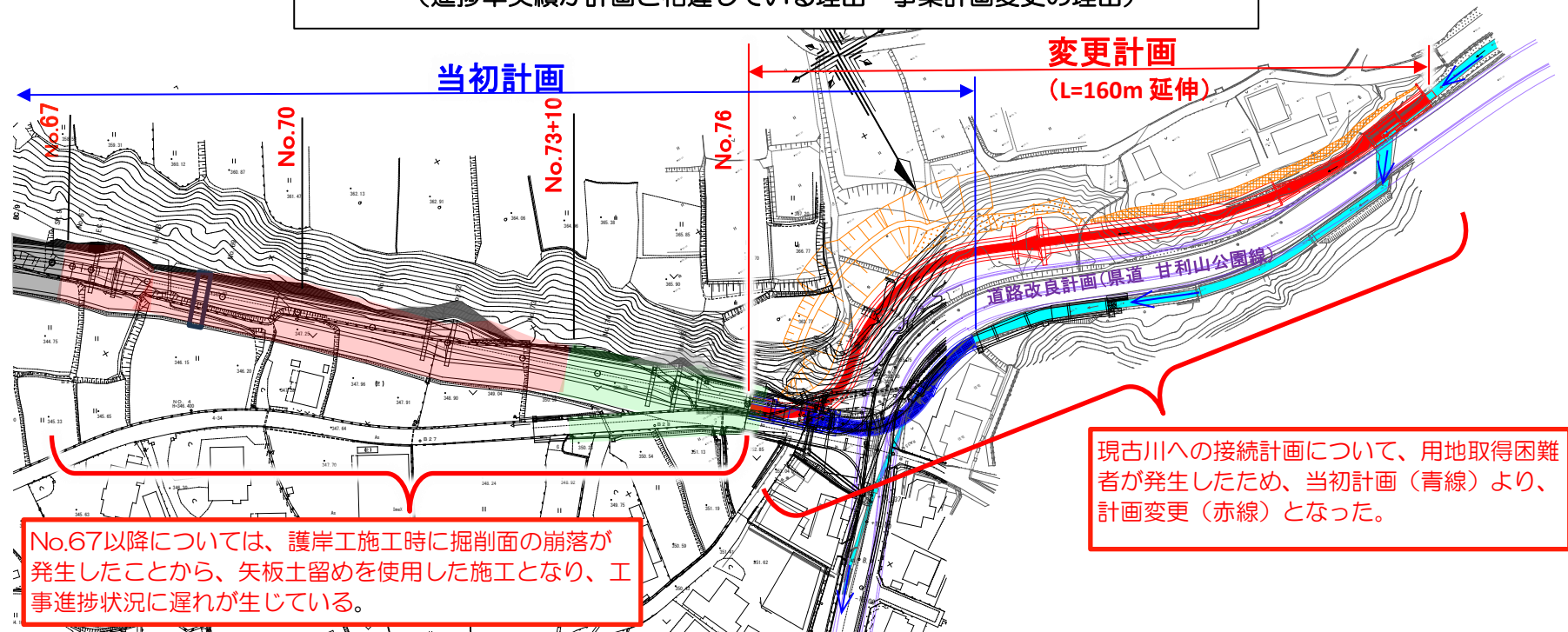


写真⑥ バイパス起点上流付近 左：出水状況（改修前） → 右：現況河道（改修後）



3.添付資料シート（4）

事業進捗状況
(進捗率実績が計画と相違している理由・事業計画変更の理由)



護岸工掘削時崩落状況（No.67付近）



矢板土留めによる施工状況
(No.67から上流)

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H3	6,000	護岸工・橋梁工 設計1式	0.2
H4	9,000	護岸工・橋梁工 設計1式	0.4
H5	40,000	用地補償 1式	1.4
H6	60,000	用地補償 1式	2.9
H7	350,000	護岸工 L=125m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	11.9
H8	70,000	護岸工 L=30m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	13.7
H9	80,000	護岸工 L=40m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	15.8
H10	60,000	護岸工 L=45m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	17.3
H11	110,000	護岸工 L=240m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	20.1
H12	110,000	護岸工 L=70m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	22.9
H13	70,000	護岸工 L=60m	24.7
H14	80,000	護岸工 L=20m、橋梁工 1橋	26.8
H15	50,000	護岸工 L=25m	28.1
H16	90,000	護岸工 L=75m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	30.4
H17	182,000	護岸工 L=75m、橋梁下部工 1橋	35.1
H18	235,000	護岸工 L=135m、橋梁上部工 1橋、用地補償 1式	41.1
H19	168,000	護岸工 L=100m、橋梁工 1橋、取水堰 1基、用地補償 1式	45.4
H20	220,000	護岸工 L=300m、用地補償 1式	51.0
H21	150,000	護岸工 L=60m、用地補償 1式	54.9
H22	40,000	護岸工 L=100m、用地補償 1式	55.9
H23	90,000	護岸工 L=110m、橋梁工 1橋、用地補償 1式	58.2
H24	20,000	護岸工 L=70m、橋梁工 1橋、地図訂正	58.7
H25	10,000	地図訂正	59.0
H26	5,000	地図訂正	59.1
H27	47,000	用地補償 1式	60.3
H28	120,000	護岸工 L=180m、橋梁工1橋、調査1式	63.4
H29	100,000	護岸工 L=80m、橋梁工1橋、調査1式	65.9
H30	70,000	護岸工 L=160m、橋梁工1橋、用地補償1式、調査1式	67.7
H31	87,000	護岸工 L=90m、橋梁工1橋、調査1式	70.0
R2	60,000	護岸工 L=30m、橋梁工1橋、調査1式	71.5
R3	110,000	護岸工 L=120m、調査1式	74.3
R4	110,000	護岸工 L=120m、調査1式	77.2
R5	35,000	護岸工 L=40m、調査1式	78.1
R6	35,000	護岸工 L=40m、調査1式	78.9
R7	20,000	護岸工 L=20m、調査1式	79.5
R8	100,000	護岸工 設計1式	82.0
R9	201,000	護岸工 L=80m、用地補償 1式	87.2
R10	170,000	護岸工 L=70m	91.5
R11	170,000	護岸工 L=70m	95.9
R12	160,000	護岸工 L=60m	100.0
合計	3,900,000		